

## 平成27年新年名刺交換会

平成27年新年名刺交換会が、平成27年1月21日（水）午後5時30分から生田神社会館に於いて兵庫県知事井戸敏三氏をはじめ兵庫県・神戸市等関係行政機関の幹部、関係団体代表等の来賓をお迎えし、総勢161人の出席の下、盛大に開催されました。

開会に先立ち、先ず生田神社の巫女によるお神楽・豊栄の舞を奉納して参会者の繁栄を祈念し、平井会長挨拶、井戸知事及び加茂顧問（兵庫県議会議員）挨拶、来賓紹介、新入会員紹介、賛助会員紹介、高田顧問（元神戸市議会議員）の発声による乾杯を次第とする名刺交換会が、和やかな雰囲気の中で進められ出席者の交流を図りました。



豊栄の舞



平井会長挨拶

### 【平井会長挨拶（要旨）】

新年明けましておめでとうございます。今年は1月17日で震災から20年を迎えました。20年経って、震災時のあの惨状が復興し、本当に見違えるようなまちになってきました。そして復興から新しい兵庫づくりに、我々も参加していかなければならない時期を迎えたと思います。

南海地震発生の可能性が様々に言われています。それに対する日頃の備えも我々の大事な役目であり、協会の存続は、当然会員会社の存続があつてのものですが、いま大企業を中心に災害時の事業継続計画づくりが進んでいます。震災時の対応や拠点の確保をどうするかなどが盛んに話し合われています。我々のような中小企業にはなかなか難しいですが、万一のことを考えて我々も備えをしていく時期に来たのではないのでしょうか。協会としてもどのような形で計画作りを支援できるか考えていかなければならないと思っています。

近畿6電業協会会長連絡協議会を関係電業協会間でつくっていますが、そこで相互に広域防災協定を結んでおります。1月16日には、当協会の情報伝達訓練に合わせ、6電業間でも初めて情報伝達訓練を行いました。今年は、特に震災の影響が懸念される和歌山が中心となって、広域防災の活動内容を更に検討していくこととしております。具体的な案ができましたら、皆さんにご案内しますので、その時にはご協力をお願いします。

さて、業界も高齢化してきました。若い人材がなかなか建設業界に入っていない、将来が心配であることは折に触れて申して参りましたが、協会では工業高校の生徒を対象としたインターンシップを続けており、今年度は8校から73名の生徒を会員会社で受け入れていただきました。業界に就職していただける高校生も出てきております。更に1級電気工事管理技士の資格取得を応援する受験対策講習会などを行っていますが、なお一層、若い人材の獲得、育成に向けた事業に積極的に取り組んでいきます。

協会は、現在、正会員145社、賛助会員18社の合計163社で運営しております。以前から正会員170社が目標と申して来ましたが、賛助会員を含め是非200社規模の協会となるように頑張りたいと思いますので、是非ともご協力をお願いいたします。

今年は、官公庁の皆さんからどんどん仕事を出していただき、会員企業がそれに積極的に応じ、そして良い仕事を届けたい、そんな決意を申し上げて、新年の挨拶といたします。



井戸知事挨拶



会場風景

### 井戸知事挨拶要旨

新年あけましておめでとうございます。昨年の住宅着工件数やマンションの販売実績などからすると今年気分よく新年を迎えられたのではないかと思います。今年もこの傾向が続いてくれたらと願っております。民間設備投資は、兵庫県の場合は全国平均をかなり上回り、景気動向にもよりますが、電業協会に関連する仕事量そのものは確保されていくのではないかと思います。人手不足などの課題もあるかも知れませんが、是非乗り切っていただくようお願い、そしてご期待を申し上げたいと思います。

さて、1月17日には阪神・淡路大震災から20年を迎え、追悼式典には天皇・皇后両陛下のご臨席を賜りました。復旧・復興への歩みについて深い思い入れをお持ちのお二人に、ご臨席をいただけただけで随分と励ましをいただいたと思っております。併せましてこれからの安全な兵庫づくりに向け、震災の記憶を風化させず、高齢者対策やまちの賑わいづくりなど残された課題への対策を含め、兵庫の安全を確保していくという意味で極めて強いご指導をいただけたのではないかとそのように受け止めさせていただきました。

ポスト20年をどう乗り切っていくか、いろんな課題がありますが、安全が確保されてはじめて人々の生活、産業、社会も成り立つわけです。1月5日の御用始めでは、世界一安全なふるさと兵庫を目指しますと言いましたが、実を言うと安全が確保されるといろんな方々が兵庫で活動を展開したいと思われるはずですし、安全な地域だということになれば、豊かな生活が出来る基盤があるということになります。若い人も含めて兵庫に住んでいただける、企業も活動していただけるということになり、ある意味で地域振興の切り札になり得るのではないかと申し上げたものであります。

安全の確保を、これからの県政の大きな柱に据えたいと考えています。それには建物の耐震化が極めて重要です。先日のテレビで、高層ビルが横揺れの地震で倒壊するのではないかとというシミュレーションが放映されていましたが、どこまでの対応をすればよいか、どこが安全なのかをきちっと評価しながら対策を考えていく必要があるのだということを示唆してくれたと思います。

そういう意味で、建築、土木に関係する電業協会を含めた関係の皆様のご指導を得ながら、安全な県土づくりを目指していきますので、どうかよろしく願いいたします。

最後になりますが、今年一年、参会の皆様方がお仕事でも大活躍され、そして個人的にもお幸せを確立されることを心からご祈念申し上げて、新年の挨拶とさせていただきます。

### 主な行政関係出席者(敬称略)

井戸敏三(兵庫県知事)、加茂忍(兵庫県議会議員・協会顧問)高田巖(元神戸市会議員・協会顧問)、富岡誠司(県理事)、大町勝(県まちづくり部長)、山田聖一(県県土企画局長)、小南正雄(県住宅建築局長)、秋山和裕(県環境管理局长)、土居康成(県企業庁次長)、福田恵匡(兵庫労働局安全課長)、中村義朗(神戸市住宅都市局設備担当部長)、川端宏幸(兵庫県住宅供給公社理事長)